

5. 'あきたこまち'、'コシヒカリ'における割れ粳と斑点米との関係（技術）			
[要約] 県中北部地域の'あきたこまち'は'コシヒカリ'に比べ、 <u>割れ粳率</u> が高いため、 <u>斑点米</u> の原因となる <u>カメムシ類</u> による被害を受けやすい。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0543

[背景・ねらい]

前年度の被害実態調査では、岡山県北部の'あきたこまち'、'コシヒカリ'でカメムシ類による被害粒（斑点米）率や割れ粳率が高かった。今回は、両品種の割れ粳と斑点米との関係を知り、防除上の資料とする。

[成果の概要・特徴]

県中北部地域の24か所から採集した粳（'あきたこまち' 13、'コシヒカリ' 11）を、割れ粳と正常粳（割れていない粳）とに分け、カメムシ類による被害粒数を調査した。

1. 'あきたこまち'の割れ粳率は、'コシヒカリ'より高かった（表1）。
2. 割れ粳及び正常粳での被害粒率をみると'あきたこまち'、'コシヒカリ'とも割れ粳での被害が多く、両品種の被害程度はほぼ同じであった（表2）。
3. 'あきたこまち'の被害粒率は'コシヒカリ'より高かった（図1）。

以上の結果から、県中北部地域の'あきたこまち'は'コシヒカリ'に比べ割れ粳率が高いことから、斑点米カメムシ類による被害が多い。

[成果の活用面・留意点]

1. 県中北部で'あきたこまち'を栽培する場合には'コシヒカリ'以上に出穂期のカメムシ類の防除、圃場周辺の雑草管理等を徹底するとともに品種選定も考慮する必要がある。
2. 'あきたこまち'に割れ粳が多かったのは、品種特性か外部要因によるものかは明らかではない。

[具体的データ]

表1 割れ糲率の比較

品 種	割れ糲率(%)
あきたこまち	12.4 (0.7~29.0)
コシヒカリ	2.7 (0.4~ 9.7)
	**

**：1%水準で有意差あり

表2 割れ糲及び正常糲での被害粒率の比較

品 種	被害粒率(%)	
	割れ糲	正常糲
あきたこまち	5.7(0~18.3)	0.8(0.2~2.0)
コシヒカリ	4.2(0~14.3)	0.4(0~1.0)



割れ糲

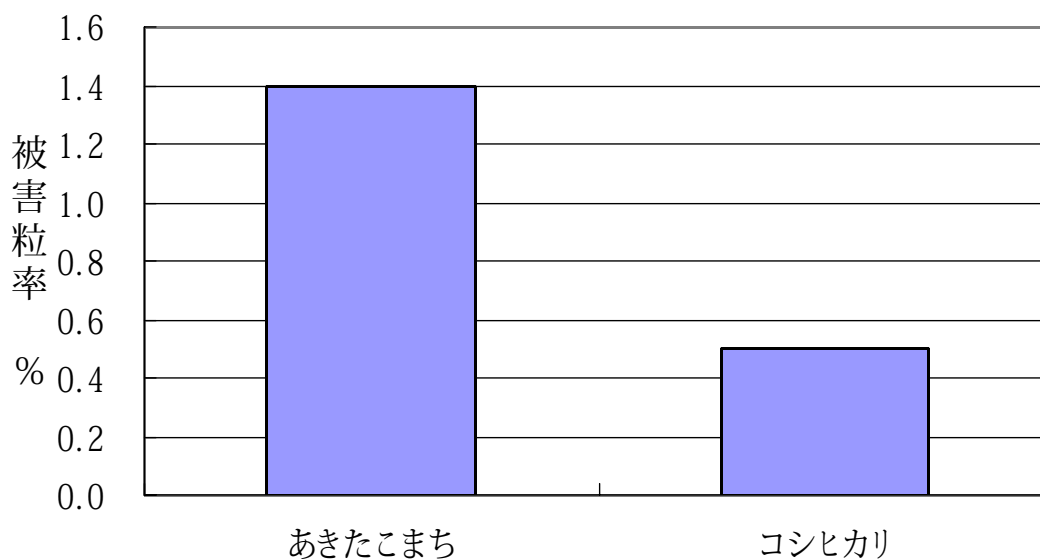


図1 品種間での斑点米カメムシ類による被害粒率

[その他]

試験研究課題・事業名：カメムシ類による斑点米の発生状況・発生予察事業

予算区分：国補（発生予察）

研究期間：平成13年度

関連情報等：なし